



宇宙×AI×広告で実現する 需要最適化への挑戦

2025.11.7
dentsu
tokyo/osaka/nagoya

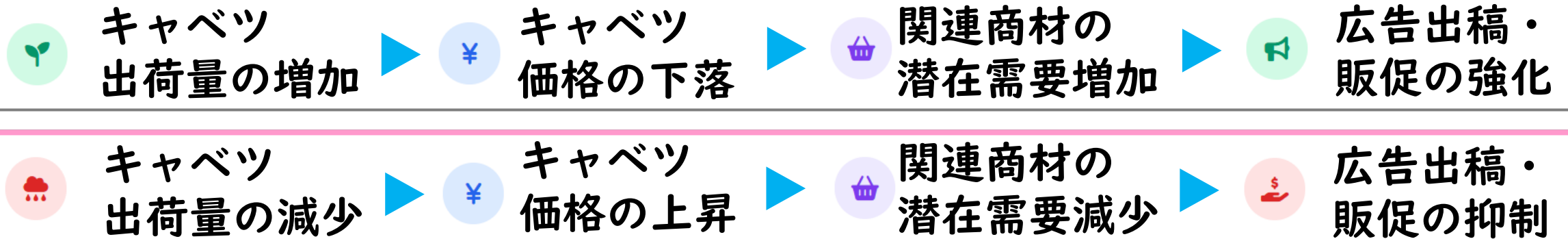
JAXA宇宙イノベーションパートナーシップ（J-SPARC）の下、
人工衛星データ活用による、広告の高度化を通じた
需要の創出と需給の最適化の実現に向け、共創活動を推進。



広告の本質＝「需要と供給の最適マッチング」

広告は、商品の良さや最適な買い時を、生活者に知っていただく役割。

仮説



最適化戦略？

💡 生産量予測に基づく広告最適化：キャベツの生育・出荷量の先読み → 価格の先読み → 広告出稿の最適化という連鎖を活用

早期の出荷量データ把握により、価格変動を予測し、関連商材の広告出稿タイミングとボリュームを最適化することで、マーケティング効率の向上とROI最大化が可能になる？



孺恋村は夏秋キャベツ出荷量日本一
＝「広大な畑」

(キャベツ畑面積は約2,800ha 東京ドーム約500個分)

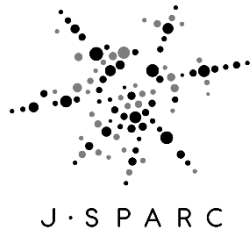


ドローンで全体を撮影するには
約400時間必要

(※1時間あたり、10haの圃場を撮影するとして試算
※孺恋村全体の耕地面積は約4,000haで、このすべての撮影が必要。)



広大なキャベツ畑を衛星で把握



- ◆ 衛星データ活用、予測モデル開発に関するナレッジ提供
- ◆ 事業化支援

- ◆ 現地調査協力
- ◆ 正解データ提供・予測結果評価

- ◆ 事業化検討・推進
- ◆ 開発マネジメント
- ◆ 広告セールス、キャンペーンプランニング・最適化

現地調査及び衛星データ解析



- ◆ 収穫・出荷量の予測モデル開発

- ◆ 現地調査高度化アプリ開発
- ◆ 生育予測ダッシュボード開発

データ連携

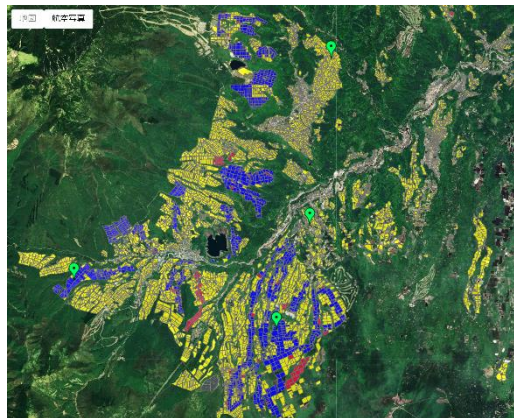
価格予測



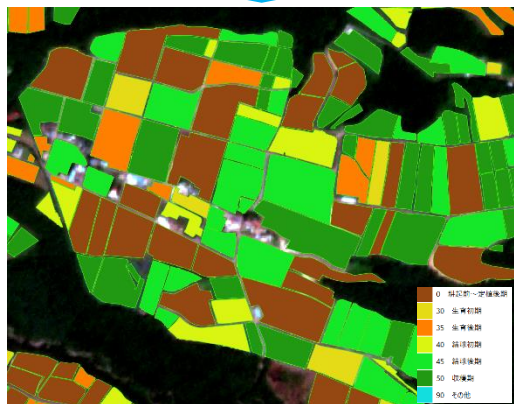
- ◆ 市場価格・入荷量の予測モデル開発（衛星×現地×気象×市場データを融合）



衛星画像解析



効率的な現地調査データ取得
両毛システムズ開発アプリで6名×2日で
1400ポイント(圃場)のデータ取得が可能に



高精度な生育分類を実施
衛星データ×現地調査データで、高精度にキャベツの生育分類状況を把握することが可能に



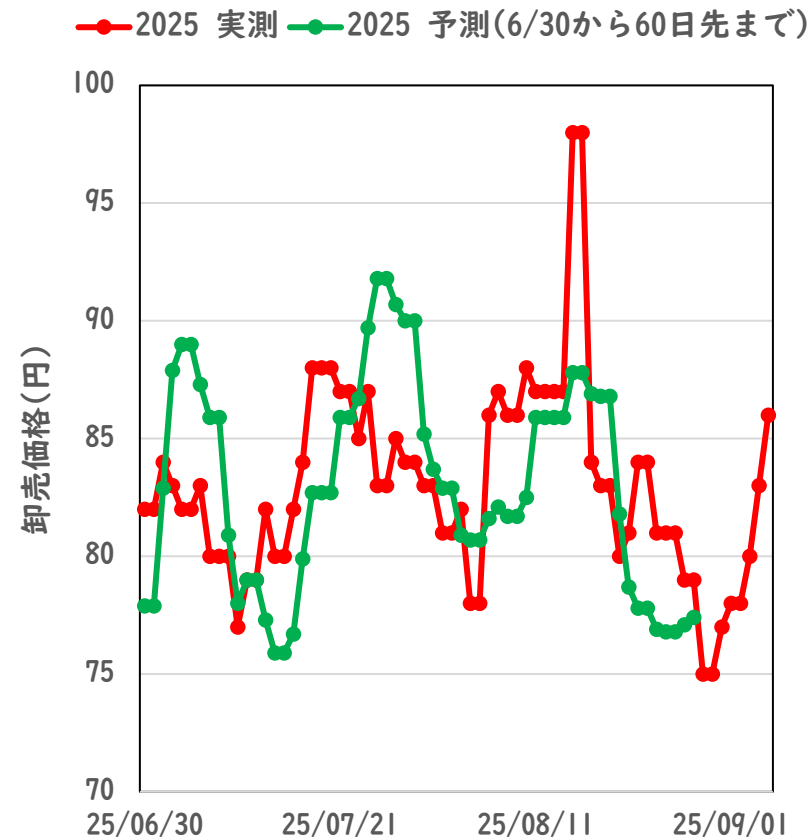
出荷量予測



予測誤差約750万トン
(平均出荷量の約8.3%)



価格予測



予測誤差約4.5円
(平均卸売価格の約5.4%)

©RESTEC/両毛システムズ/電通デジタル

まずは、予測精度の向上を図りながら、予測データを
広告計画や生産出荷計画に活用し、ナレッジを蓄積。

本取り組みをビジネス化し、農業を取り巻く生産者・生活者の双方を
取り巻く社会課題の解決に貢献していく。



来年、このロゴをスーパー等で見かけたら、
是非、キャベツを美味しく食べるための関連商材も併せて、
お買い求めください!!



みずみずしく育ったキャベツを
いちばん美味しいタイミングで食べてもらいたい。
そんな嬬恋村の思いが、
衛星データを利用した収穫、出荷の最適化で実現していきます。
高原育ちの柔らかい歯ごたえ、生で食べても甘味がしっかり。
一度食べたら、あなたもきっと、このキャベツに恋をする…!